

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症 例 概 要 利用者:90代 性別:女 介護度:要介護3

病名:左大腿骨頸部骨折術後 難聴

利用サービス:入所

経過:骨折術後に水腎症の治療。その後回復期から当施設入所。歩行とADLが修正自立になれば、独居宅へ退院目標に施設での生活を送っている。

内 容

入所時、歩行ベースであったが、バランスが不安定で見守りレベル。難聴が強く、意思疎通困難であり、ご本人が伝えたいこととケアする側でのズレが生じていた。コミュニケーションが取れず、イライラした表情が多くみられた。早期にチームで評価、歩行状態はあがり、杖歩行～フリーハンド自立となる。

その一方で、居室にて1人で過ごす時間が多くなっており、うつのような状態が出現。『このスタッフは何もしてくれない』などの発言があり、笑顔もほとんど見られなくなっていた。趣味である、絵を描くことが好きなことに注目し、担当介護士が描きやすいように机を製作。

『絵なんか描く気にはなれない』と始めは言われていたが、根気良く接する中、少しずつ、施設に飾られている置物や花の絵を描き始め、描いた作品を見せてくれるようになり、他者との交流も増え『最初はこんなことやる気がなかったのに、今は生活が楽しいね』と笑顔がみられるようになった。心身共に安定され、ご本人の希望される自宅へ4月下旬に退所となる。

関りを振り返り、気持ちに寄り添う大切さをチームで共有。心豊かな生活、笑顔、その人らしさを引き出した事例であった。